呼吸器外科　研修プログラム

１　研修先

呼吸器外科

２　指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

３　診療科基本スケジュール

（１）　研修期間　　必修研修　　４週間

自由選択研修　４週間　　**※自由選択が１回目の研修は当該期間を短縮することはできない（延長は可）が、２回目以降の研修は短縮することができる。**

（２）配置予定

	必修研修	自由選択研修
病　棟	指導医の下で受持医	・指導医の下で受持医 ・１年次のサポート（２年次の場合）
外　来	指導医の下で、外来患者を適宜診察	指導医の下で、外来患者を適宜診察
手術	手術には、全例、手洗いを行って手術に参加し、指導医のもとに、皮膚切開や創縫合などの手技を実践する。	手術には、全例、手洗いを行って手術に参加し、指導医のもとに、皮膚切開や創縫合、開胸・閉胸などの基本手術操作ができる。
救急	時間内救急車対応 指導医とともに検査・処置（胸腔ドレナージ術など）などを施行し、結果について指導医と討論することができる。	・時間内救急車対応 指導医とともに検査・処置（胸腔ドレナージ術など）などを施行し、結果について指導医と討論することができる。 ・１年次のサポート（２年次の場合）

（３）週間予定表

	午　　前	午　　後
月	病棟回診、手術	病棟業務、手術
火	病棟回診、外来、病棟業務	病棟業務、症例検討会 呼吸器カンファレンス
水	病棟回診、手術	病棟業務、手術
木	病棟回診、手術	病棟業務、手術
金	病棟回診、外来、病棟業務	病棟業務、症例検討会

４　研修目標

【一般目標】

外科の基本的手技である皮膚切開および創縫合、糸結びなどの技術を身に付ける。また術後患者を中心に、全身の病態を把握するための基本的診療能力を養う。そして診察所見や病態理解に基づいて的確な診療記録を記載し、また問題点が把握できるようになることをめざす。

【行動目標】

(1) 病棟において、指導医とともに患者を担当し、指導医が立案した診断・治療の計画を理解することができる。

(2) 病棟において、指導医とともに検査・処置（胸腔ドレナージ術など）などを施行し、結果につ

いて指導医と討論することができる。

(3) 手術においては、皮膚切開や創縫合、糸結びなどの基本的手技を確実に行うことができる。

#	代表的行動	知 識	態 度	技 能
①-1	患者の病歴を聴取する。		●	●
①-2	胸部の診察する。		●	●
②-1	禁煙指導を行う。		●	●
②-2	術後の疼痛管理を行う。		●	●
②-3	周術期の異常を認識する。	●	●	
③-1	胸部の解剖を理解する。	●		●
③-2	胸腔ドレナージの目的と意義を理解し、その手技を経験する。	●	●	●
③-3	肺理学療法の目的と原理について理解する。	●		

#	代表的行動	知 識	態 度	技 能
①-1	胸部Ｘ線写真の読影をする。	●	●	●
①-2	胸部CTの読影をする。	●	●	●
①-3	呼吸機能検査の評価をし術後肺機能を予測する。	●		
			●	●
②-1	胸腔ドレナージを経験する。		●	
②-2	開胸手技を経験する。		●	
②-3	縫合処置、閉胸手技を経験する。	●		
			●	●
③-1	肺癌、自然気胸、慢性肺気腫、炎症性肺疾患、縦隔腫瘍の病態を理解する。			
③-2	診療録、退院サマリーを遅滞なく記載し作成する。			

５．経験すべき症候・疾病・病態　（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	胸痛、呼吸困難、喀血、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁、排尿困難)、終末期の症候
経験すべき疾病・病態(※2)	肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、高エネルギー外傷・骨折、脂質異常症

※1　外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。
※2　外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6　経験すべき手技

採血法（静脈血・動脈血）、注射法（静脈確保）、穿刺法（胸腔）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置、動脈血ガス分析（動脈採血を含む）、心電図の記録

7　実際の業務

・病歴聴取、身体診察を行い、指導医にプレゼンテーションを行う。臨床推論に基づき、考えるべき鑑別診断をあげ、検査・治療を含む方針を決定する。
・病棟においては指導医とともに担当患者を受け持ち、指導医に同伴しながら患者の診断・治療などの診療に従事する。また手術について患者管理の要点を習得する。
・外来研修では、外来診察医として指導医の指導のもと、外来患者の診察を行う。
・手術周術期に計画されている検査、治療方針について理解する。受け持ち患者の手術には、全例、手洗いを行って手術に参加し、指導医のもとに、皮膚切開や創縫合などの手技を実践する。
・主要な病状・手術についての講義を随時行う。検討会・カンファレンスには必ず出席し、受け持ち患者の術前・術後の病態を指導医のもとに報告する。

8　指導内容

・ベットサイドでのリアルタイムの指導・フィードバック
・症例プレゼンテーション、診療録に関するフィードバック
・個々の症例に対するマネジメントの相談、フィードバック

9　方略・評価

・診療科基本スケジュールに沿って研修を行うほか、オリエンテーション（業務内容や主な術後患者のマネジメントの要点説明等）や病棟回診（テーブル回診、患者診察）、患者・家族説明への同席、カンファレンスを実施する。
・担当医として経験した症例を指導医にプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
・研修終了後、指導医、メディカルスタッフから評価、フィードバックを受ける。